

種別:オーストラリア語学研修
期間:2週間 留学時の学年:1年

岡部 るりさん



オーストラリア アデレード

留学のきっかけ

小学生の時から英語や外国のものが好きで、留学に前から興味があった。私は人前で話すが必要以上に緊張したり、思っていることをうまく言えなかったりするので、そんな自分を変えて自信をつけたいと思った。

留学全般

一番の思い出

ホストファミリーにビーチや買い物に連れて行ってもらったこと。留学中ホストファミリーにはとても丁寧に接してもらい何も不自由しなかったけれど、特別扱いをしすぎずに普段行くスーパーや矯正歯科、習い事の柔道にもついて行かせてくれて、リアルな現地の暮らしに触れることができました。



英語学習

日本において外国の方と英語で話す機会をなかなか作れず、留学先で自分の言いたいことが伝わるか、相手の言いたいことが伝わるか不安だったので、事前学習も少しだけした。例えばPodcastで英語の番組を聴いたり、会話表現を本で学んだり。それでも文法や単語を完璧にすることはできなかったけれど、会話をスムーズにすることや自信を持って話すことにつながったと思う。留学先では、たまに英語が聞き取れなかったり、自分の思い込みでカタカナ英語を使い(例えば発音とか、リボンとbowの違いとかを知らなかった)会話を止めたりしてホストファミリーや友達にたくさん迷惑をかけたと思うけれど、私たちが伝えようとする限り、留学先の人たちは何を伝えたいのか理解しようとしてくれたので、最後まで誤魔化さないで伝えることが大切だと感じた。

授業外の活動

校外学習に行く機会が多く、特にWild Life Parkというオーストラリアでしか会えない動物にたくさん会える場所に行ったのが印象に残っている。現地でもしか体験できないこと、現地でもしか買えないものに目を向けることで、留学がより楽しくなったと思う。逆に日本にもあるようなスーパーや薬局に行って日本との違いを探してみるのも楽しいと思う。校外での活動やホストファミリーとの外出では、お店の人や現地の人と積極的に話してみたことでよりオーストラリアのことを知ることもできたし、英語力も上がったと感じている。



留学したことで学んだこと、得たもの

移民が多いからこそそのオーストラリアの街の景色や各家庭の生活様式を自分の目で確かめて考えることができた。

ホストファミリーの通っている学校に留学期間中一緒に通っていたので、登下校は毎日一緒だった。私たち留学生のほうが終了時間が遅いことがほとんどでホストファミリーを待たせていたので、「待たせてごめんね」と言ったら困った表情をされたのが気に掛かり、次の日は「待っていてくれてありがとう」と言ってみたら、「問題ないよ!」と返事をしてくれた。日本でも相手によってはそうかもしれないし、海外でも謝ることは大切だと思うが、お礼を先にはっきり伝える方が相手は気持ちが良いし、海外の人と仲良くする上で大切なことの一つなのかなと感じた。

ホストファミリーだけでなく現地校の生徒とも友達になれた。私は日本に帰ってきてもホストファミリーとプレゼントや手紙のやり取りをしているので、日本での楽しみも一つ増えたと思う。

今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

日本の大学に進学しようと考えているが、大学の留学制度を使ってもう一度留学先であるアデレードの大学で学びたいと思っている。これからも英語と海外の文化を学び続けて、具体的には決められていないが、将来は英語を使う仕事につきたい。そのために、校内の海外交流のプログラムを活用したり、留学先で知り合った人との交流を続けて、自分から英語を使う機会を作っていきたいと思う。



これから留学される方へのメッセージ

留学に申し込むのにも、いく準備をするのにもとても時間がかかると思うので大変なことも多いかもしれないけれど、留学先ではそれ以上に楽しいこと、貴重な体験が待っているのです、少しでも興味があったら一度チャレンジしてみしてほしいです。私は人前で話すことが得意ではなかったし、自分には何の取り柄もないなと悩むことが多かったけれど、留学に行ってみて英語が少し上達したことや現地の方と積極的に話す機会を作っていたことで自信をつけられたし、何より経験値が上がったと実感しています。オーストラリア語学研修では添乗員さんや現地校の先生、ホストファミリーが常に見守っていてくれたので、安心して留学生活を送ることができました。高校生のうちに海外に目を向けてみるとこれからの進路を選ぶ時の視野も広まると思うので、ぜひ現地でも自分からいろいろなことをやってみてほしいです。

種別:海外短期留学チャレンジ
期間:16日間 留学時の学年:1年

門野 瑠利佳 さん



カナダ バンクーバー

留学のきっかけ

自分の英語力をはかるとともに、異文化の経験を通して多様な考え方に触れ、幅広い視野を身につけたかったから。

留学全般

一番の思い出

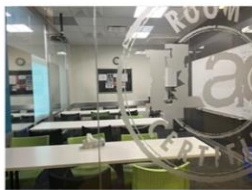
ホストファミリーと家でカラオケをしたこと。英語の曲だけでなく、ホストファミリーの出身国であるフィリピンの曲も勧められるがまに見よう見まねで歌った。歌うのは得意ではないが、盛り上がって楽しかった。

英語学習

午前中は家でZoomで授業を受けた。午後は現地の学校に通い、他の国から来た留学生と一緒に学習した。デジタル版のテキストを用いて、リスニングやライティング、リーディングなどのワークに取り組んだ。クラスメイトとのコミュニケーション活動も多く、お互いの国について交流できた。クラスでゲームをすることも多かった。

授業外の活動

学校から帰った後はホストファミリーとできるだけ長い時間過ごすように心がけていた。スーパーや寿司屋、教会などに連れて行ってもらった。また街を散策したり、友達とラーメンを食べたりするなど、短い期間でバンクーバーを堪能できた。

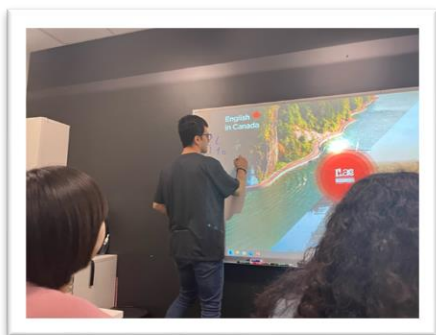


留学したことで学んだこと、得たもの

ホストファミリーや海外の留学生との交流を通して、国際交流の喜びを知ることができた。カナダの文化を肌で感じることができ、留学に行かなければできなかった経験をすることができた。驚くこともあったが、その環境を受け入れて過ごすことが異文化理解につながったと思う。留学前は人前で意見を言うのが苦手だったが、クラスメイトが積極的に発言するのを見て自分も少し慣れたと思う。カナダまで1人で行った上に、単独行動も多かったので度胸もついたと思う。日本を離れて過ごしてみて、あたりまえにある日常のありがたみを実感した。

今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

国内の大学への進学を考えているが、自分の英語の拙さを痛感したので、さらに英語力を向上させて今後の国際交流の機会に活かせるようになりたい。英語力が向上したら、将来他の国への渡航にも挑戦してみたい。



これから留学される方へのメッセージ

留学に不安があるかもしれませんが、現地ではしか体験できない貴重な経験になるので、興味があればぜひチャレンジしてほしいと思います。トラブルもありましたが、ホストファミリーやエージェントの方が手厚くサポートしてくれました。英語に自信がなくても躊躇わずにコミュニケーションをとろうとすることが大切だと思います。その姿勢を見たら周りの人はきっと優しく受け止めてくれると思います。留学中はとにかく楽しんでほしいです。普段から多忙かもしれませんが、留学の準備は前もってやっておくほうが良いと思います。慣れない環境での生活になるので、何事にも事前の準備や時間の余裕を持つておくことが大切だと思います。

種別:現地校留学
期間:1年 留学時の学年:2年

奈良 巴園 さん



イギリス シェアボーン

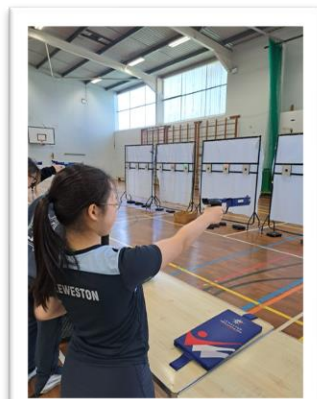
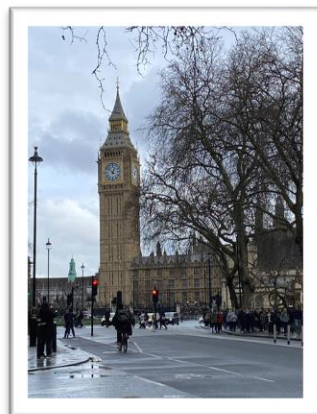
留学のきっかけ

私が留学に興味を持ち始めたのは小学校6年生の春休み、ちょうど中学受験が終わった時に、母に勧められてアメリカのロサンゼルスにホームステイに行ったのが始まりでした。英語を学習し始めてたったの3ヶ月での渡航でしたので、自分の意見を伝えることもできず、その悔しさに涙する日々でした。ただ、発音だけはよくなっており、それがきっかけで一年間の長期留学をしたいと思うようになりました。しかしそんな中、新型コロナウイルスが流行し、留学を諦めざるをえない状況になってしまいました。留年することは避けたかったので、当初は高校での留学は考えていませんでしたが、たまたまインターネットで単位互換制度があることを知りました。もしその制度を利用して留年することなく留学できるなら長期留学したい、と再び思ったのが今回の留学のきっかけです。

留学全般

一番の思い出

留学中の一番の思い出は、最後にあったProm Partyだと思います。Promは欧米の学校で開かれる卒業パーティーのようなものです。映画で見たことがある、という方も多いのではないのでしょうか。私の学校のPromはドレスコードがblack tieであり、参加するためには女子はイブニングドレス、男子はタキシードが必要です。私は3ヶ月前からドレス、アクセサリーに始まり、バッグ、靴、パニエ、コルセットなどを準備しました。当日は朝からネイル、ヘア、メイクを順番に行い、夜のパーティーに備えました。パーティーは19時から23時半までで、会場に到着するとまず、カナッペとウェルカムドリンクを楽しみながら、友人と写真撮影をします。一通り写真撮影が終わり、会場に入ると、ディナーがサーブされます。ディナーはコース料理だと食べきれないかもしれないと心配していましたが、単品で量もそう多くはなく、コルセットを締めていても食べ切れたのでとても安心しました(笑)ディナーの後はずっとダンスです。合計で3時間半は踊ったと思います。イギリスの6月は気温も湿度もあまり高くなく、とても快適なのですが、このときばかりは、皆汗だくだくになりながら踊り、女子は足が痛くなったのか、途中からヒールを脱いでいました(笑)ダンスは、ワルツなどの社交ダンスではなく、いわゆる現代音楽に合わせて適当に踊るというものなので、特に社交ダンスのスキルは必要とされませんでした。時々急にホールドを組まれてリードされたり回されたりしたので、最低限、何をされたら何をしなければならぬのかは理解しておくべきだと思いました。



授業外の活動

私の学校には、クラブ活動をはじめ様々な課外活動がありました。私はヨット部と馬術部に所属しており、週に一回ヨットと乗馬を楽しみました。また、学校で楽器の個人レッスンを受けることもできました。楽器のレッスンでは、一学期に一度発表会があり、それに向けて練習したり、私は結局受験しませんが、英国王立音楽検定の課題曲を練習している生徒が多かったです。学業の面における活動としては、数学オリンピックに参加しました。私の学年は、SeniorとIntermediateの両方のカテゴリーに参加可能でした。Intermediateのカテゴリーでは、南西部でトップ、Seniorのカテゴリーでは本選の第1ラウンドで敗退という結果に終わりました。このように書くと、とてもすごいことのように思えますが、日本の数学オリンピックとは異なり、予選に関しては、そこまで難易度は高くなく、三角関数を除けば中学受験時代に受けた模試と同じようなレベルの問題だったと思います。さらに、Half Termと呼ばれる学期の中頃にある休暇では、ロンドンへ一人旅に行ったり、ホームステイをしたりと貴重な経験をすることができました。ホームステイをしたときは、高校3年生の5月ということもあり部屋で勉強漬けでしたが、ロンドン一人旅では、自分で旅行計画を立て、イレギュラーな事件にも対応しながらのんびりと過ごしていました。

英語学習

私はイギリスの学校で、English as an Additional Language(EAL)という授業をとっていました。この授業は、留学生を対象とした英語の授業です。もちろん、現地の生徒が受けている英語の授業を受けることもできましたが、授業内容がシェイクスピア文学や詩、物語の創作であったため、英語という言語を学習する上では、EALの方がよいだろうと考えました。私の学年には、学年末にGCSEという全国统一テストがあり、それに向けた授業が行われていました。EALも例に漏れず、EALの試験でよい点数を取るための演習がメインでした。試験内容は、読解・英作・リスニング・スピーキングと多岐に渡ります。読解・リスニングに関しては日本の試験と大差ありませんが、英作に関してはどちらかというとエッセイのようなもので、手紙やレポートを書く、といったものでした。文法やスペルのミスがあっても良いから、なるべく難しい文法や単語を用いるというのは、日本のミスなく書くという試験に慣れている私にとってはとても難しかったです。また、イギリス英語も私を苦しめました。私たちが日本で学習しているアメリカ英語とイギリス英語では、発音はもちろん、単語や綴りにおいても違いがあります。例えば、日本では”recognize”と習うと思いますが、イギリス英語では”recognise”です。もちろん意味自体は通じますが、languageの観点において減点対象になる可能性がありますし、逆に、日本でイギリス英語のスペルを書いてしまい、減点されることもありました。



留学したことで学んだこと、得たもの

私は今回の留学を通して、本当にたくさんのことを学んだと思います。英語はもちろん、欧米の文化、考え方などだけではなく、精神的な強さを得ることもできました。今回の留学は4度目ということもあり、母からは「計画や交渉なども含めて、極力自分で全部やっごらん」と言われていました。自分から行きたいと言ったので、当然と言えば当然なのかもしれませんが、エージェントや学校と直接自分でやりとりする必要がありました。なかなか交渉が上手くいかず、ストレスが溜まって音を上げそうになってしまったことも一度ではありません。また、留学してからも様々なトラブルがあり、自力で担当の先生、そして学校と交渉しなければならないことがありました。先生の英語を聞き間違えて、エージェントや学校に迷惑をかけてしまったこともありますし、模試の成績が悪くて部屋でこっそり泣いてしまったこともあります。このようなつらい状況に立たされても、頼れるのは自分ただ一人。時差の関係で日本にいる母と連絡することもなかなか出来ませんでした。否が応でも自分一人で気持ちに折り合いをつけて、立ち直らざるを得ない状況になり、かなり精神的に強くなったと思います。英語や文化、考え方などは、現地に行かなくても日本で学ぶことは可能です。ただ、精神的な強さは経験なくしては得られないものであり、留学の主な目的ではなかったとはいえ、身につけることができ本当に良かったと思っています。



今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

私は今後、医療の道に進み、最終的には日本でも海外でも仕事ができるようになりたいと考えています。将来、日本の経済がどうなるのかは分かりませんが、もし日本の経済がダメになったときに、すぐに海外に渡って生きていけるようにしたいと思うからです。海外で医師免許を取得するには、高い英語力が不可欠であり、受験や今回の留学をとして培った英語を活かすことが出来ればと思います。先ほど、将来は医者になりたいと書きましたが、もし仮に医学部に合格することが出来ず、医者になれなかったとしても、自分の経験を活かして働くというのも良いと思いますし、新たに事業を興すのも良いと考えています。企業は成長するにつれて、海外への進出を考えるようになります。しかし、日本と海外の文化や考え方は大きく異なるため、海外進出に失敗することは多いです。このようなときに、留学をして両方の文化を実地で学び、理解している人材は必要とされやすいのではないかと思います。また、現在、海外の教育機関が日本に進出してきています。例えば数年前に日本にHarrow Schoolができました。イギリスの名門校の授業が日本で受けられるということもあり、志願者は後を絶たないようです。私はこれと同じようなことを欧米に対してできるのではないかと考えています。イギリスやアメリカでも学歴が高いほど収入が上がるというのは事実であり、学歴を上げるためには、A Levelなどの試験で良い成績を取ることが必要です。イギリスやアメリカの授業は、日本よりも演習量が少なく、生徒のほとんどは一度学んでも身につかず忘れてしまう傾向があります。そして、試験では、日本人から見れば典型問題であるようなものを超難問だといって解けない人が多いです。このことから、私たちが日本で行ってきた、パターンを覚えて演習量を積むという教育法を海外で行えば、需要はあるのではないかと思います。具体的にどのように売り込んでいくのかなどはまだ見当が付きませんが、欧米諸国でも、アジア人、特に中国人・韓国人・日本人は理系科目が得意であるということは周知の事実です。このことを利用して宣伝していけば、良いのではないかと思います。以上のことは、ほとんど思いつきで書いているので、不十分な部分や欠点もたくさんあると思います。絶えず変化する社会の中で、その時点で何が必要とされているのかをしっかりと見極めながら、広い視野を持ち続けることを大切に生きていきたいと思いました。

これから留学される方へのメッセージ

皆さんは留学という言葉を知ると、どのようなものを思い浮かべますか？楽しそうだけど、英語が得意でないのが不安、お金がかかりそう、このようなことを思われるのではないのでしょうか。確かにお金がかかることは否定しませんが、公立高校を選択するなどなるべく費用を抑えることはできるかと思います。そして、英語が話せなくて不安だからという理由で留学に消極的な方。英語が話せなくても大丈夫です。“I want ~”すら言えなかった12歳の私がアメリカから何のトラブルもなく生きて帰って来ることが出来たんです。何とかなります。短期であっても留学に行けば、必ず言いたいことが英語で表現できないという出来事に直面します。その時は、恥ずかしくて、悔しくて、自分のことが嫌になってしまうかもしれません。しかし、それは後々、英語を勉強する良いモチベーションとなります。英単語の暗記量が多く、心が折れそうになったとき。訳の分からない構造の文章を和訳しなければならぬとき、やめてしまいたい、そう思ったとき、ふと留学の時に感じた悔しさを思い出すのです。次こそは、あのような悔しい思いをしないように、と。このように、留学をすることによって、留学が終わってからも継続して英語力をより向上することができるようになると思います。もちろん、留学で学ぶことが出来るのは言語だけではありません。その地域の文化や考え方、価値観を学ぶことが出来ます。それらを学び、理解することは、自分の視野を広げることにもつながります。一人でも多くの方が海外に渡り、自らの人生の糧となるような経験が出来ることを祈っています。

種別: 洛北Global Leadership Program
期間: 1週間 留学時の学年: 1年

山田 颯都 さん



アメリカ ボストン

留学のきっかけ

GLPに参加したきっかけは主に二つあります。一つは充実した事前学習です。英語のスピーチを現地でやることに対してGLP参加を申し込む当時はあまりイメージを持っていませんでしたが、事前学習でそれに向けたサポートがしっかりされているということだったので不安に思うことはありませんでした。もう一つは現地の有名大学と関わるプログラムです。個人では関わる機会がないであろうハーバード大学やMITの学生と交流できたり、見学できたりする機会があることにとても心を惹かれました。

留学全般

一番の思い出

スピーチコンテストです。ハーバード生の前でスピーチする二度とない機会に向けてたくさんの準備をしてきました。スピーチのお題は、マイ・ライフ・ミッション、つまり将来の夢です。まず将来何をしたいのかを具体化するために自分を見つめ深く考えました。そしてスピーチの形に落とし込み、表現に工夫を加え、自信が持てるまで直前まで練習しました。本番ではもちろん緊張はしましたが自分の実力を発揮でき、やり切ることができました。努力が報われた経験はこの先も忘れないでしょう。

英語学習

授業で学ぶ英語とは異なり、日常生活で人とコミュニケーションを取るための、あるいはスピーチで自分を表現するための英語を学び身につけることができました。実際ホームステイ先の人たちと会話する時にも事前学習で学んだ知識を活かせました。また事前学習で英語の重要性を実感し、授業の英語にも前向きに取り組んだり、個人的にYouTubeで英語の配信を聞いたり英語そのものにも能動的に学習できるようになりました。

授業外の活動

中3から高2まで混ざってお互い高め合う活動はとても刺激的でした。事前学習を含めると長い期間ともに活動するので、学年を超えた交友関係が生まれたり、学年の障壁なく意見を率直に言い合ったりGLPだからこそ人間関係を築くことができました。留学先で不安を多く抱えることなく楽しむことができたのも事前学習で生まれた絆があったからこそだと感じます。



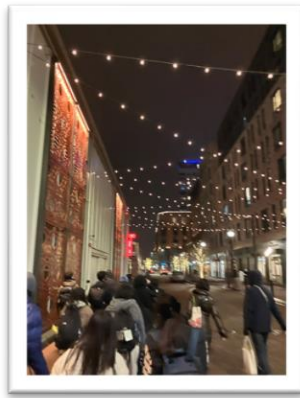


留学したことで学んだこと、得たもの

留学先の食文化には非常に驚かされました。スーパーに売っている食品をみってみると見たことのない野菜があったり、商品一個の大きさが日本よりも大きいものがあったり海外の当たり前を知ることができました。さらにレストランに行けば形式そのものが大きく異なっていたり、チップ文化だったり、残飯の持ち帰りだったり発見の連続でした。チップ文化は留学前から知識として持っていましたが、実際に体験して文化の違いを実感したからこそ留学先の文化に対する理解を深められたと思います。

今後の進路や夢、これから取り組もうと思っていること

僕のマイ・ライフ・ミッションは美味しく健康に良い菓子を開発することです。これを目指す理由は世界的に生活習慣病が問題になっている中、無理に食事を制限することなく現状を変えたいという思いがあるからです。これを実現するための知識や技術をつけるために日頃情報収集をしたり、実現できる進路を探りそこに向かってまずは受験勉強に一心に取り組んでいきます。



これから留学される方へのメッセージ

忘れてはいけないことは、自分自身が留学に行く明確な目的があってこそ実りある留学となることです。留学に行く前に事前学習などを通して一体何をしたいのか、何を学びたいのかを具体化してみてください。明確な目的を持つからこそ海外の文化に触れたときに、日本との違いや自分が当然だと思っていたことと異なることに気づけるのだと思います。

そしてもう一つ、自分の英語に自信を持ってください。もちろん留学先ではネイティブを相手にして、うまく英語で表現できなかつたり聞き取れなかつたりする経験はすると思います。しかし、自信を持って身振り手振りを使って自分の意見を表現したいという姿勢や相手の発言を理解したいという姿勢があればコミュニケーションは案外取れるものです。もちろん英語力はあってもなんぼですが、英語力を不安には思わないで自分に自信を持って留学に臨んでほしいと思います。